

# 中長期計画一覧表（2018～2023年度分）

大項目	中項目	小項目	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	
教育研究等の質の向上	基礎学力の強化と検証	国家試験合格率の維持・向上	○鍼灸学科、柔道整復学科、看護学科（以下「3学科」）国家試験合格率の維持・向上のため、補講および模擬試験等、国家試験対策の継続(目標：合格率100%)。	○3学科 引き続き、国家試験合格率の維持・向上のため、補講および模擬試験等、国家試験対策の継続(目標：合格率100%)。	○3学科 引き続き、国家試験合格率の維持・向上のため、補講および模擬試験等、国家試験対策の継続(目標：合格率100%)。	○3学科 引き続き、国家試験合格率の維持・向上のため、補講および模擬試験等、国家試験対策の継続(目標：合格率100%)。	○3学科 引き続き、国家試験合格率の維持・向上のため、補講および模擬試験等、国家試験対策の継続(目標：合格率100%)。	○3学科 引き続き、国家試験合格率の維持・向上のため、補講および模擬試験等、国家試験対策の継続(目標：合格率100%)。	
		成績上位者に対する研究意欲向上のための施策	○鍼灸学科 卒業研究の早期開始(成績上位者)。	○鍼灸学科 引き続き、卒業研究の早期開始(成績上位者)。					
		出欠管理の徹底による出席不良者への指導	○3学科 アクティブポータルの出欠確認の設定（アラートメール）活用による出席不良学生へのアドバイザーによる指導の徹底。	○3学科 引き続き、アクティブポータル出欠確認の設定（アラートメール）活用による出席不良学生へのアドバイザーによる指導の徹底。	○3学科 引き続き、アクティブポータル出欠確認の設定（アラートメール）活用による出席不良学生へのアドバイザーによる指導の徹底。	○3学科 引き続き、アクティブポータル出欠確認の設定（アラートメール）活用による出席不良学生へのアドバイザーによる指導の徹底。	○3学科 引き続き、アクティブポータル出欠確認の設定（アラートメール）活用による出席不良学生へのアドバイザーによる指導の徹底。	○3学科 引き続き、アクティブポータル出欠確認の設定（アラートメール）活用による出席不良学生へのアドバイザーによる指導の徹底。	○3学科 引き続き、アクティブポータル出欠確認の設定（アラートメール）活用による出席不良学生へのアドバイザーによる指導の徹底。
		学力把握のためのアドバイザー制度の充実	○3学科 アドバイザーによる、学生の学力把握の徹底。	○3学科 引き続き、アドバイザーによる、学生の学力把握の徹底。	○3学科 引き続き、アドバイザーによる、学生の学力把握の徹底。	○3学科 引き続き、アドバイザーによる、学生の学力把握の徹底。	○3学科 引き続き、アドバイザーによる、学生の学力把握の徹底。	○3学科 引き続き、アドバイザーによる、学生の学力把握の徹底。	○3学科 引き続き、アドバイザーによる、学生の学力把握の徹底。
		カリキュラムの検討及び改善	○3学科 社会情勢の変化に対応したカリキュラムの検討及び必要に応じた改善。	○3学科 引き続き、社会情勢の変化に対応したカリキュラムの検討及び必要に応じた改善。	○3学科 引き続き、社会情勢の変化に対応したカリキュラムの検討及び必要に応じた改善。	○3学科 引き続き、社会情勢の変化に対応したカリキュラムの検討及び必要に応じた改善。	○3学科 引き続き、社会情勢の変化に対応したカリキュラムの検討及び必要に応じた改善。	○3学科 引き続き、社会情勢の変化に対応したカリキュラムの検討及び必要に応じた改善。	○3学科 引き続き、社会情勢の変化に対応したカリキュラムの検討及び必要に応じた改善。
		教養特講による基礎学力の強化	○看護学科 基礎学力の強化に向けた教養特講の授業内容の検討。	○看護学科 1-2年生融合科目化による基礎学力の向上のための教養特講の実施。	○看護学科 引き続き、1-2年生融合科目化による基礎学力の向上のための教養特講の実施及び評価。	○看護学科 引き続き、1-2年生融合科目化による基礎学力の向上のための教養特講の実施及び評価。	○看護学科 引き続き、1-2年生融合科目化による基礎学力の向上のための教養特講の実施及び評価。	○看護学科 引き続き、1-2年生融合科目化による基礎学力の向上のための教養特講の実施及び評価。	○看護学科 引き続き、1-2年生融合科目化による基礎学力の向上のための教養特講の実施及び評価。
		学部の実を意図した教育内容の評価	○教務課 ① 教養教育と専門教育が連動した体系的な教育を実施するとともに、教育課程の継続的な評価・見直しを実施。 ② 医療職として長期的ビジョンに立ったキャリア形成ができるキャリア教育の充実。 ③ 学生が主体的に学ぶ姿勢や科学的思考を育むための授業内容の工夫や指導方法の改善。	○教務課 引き続き、 ① 教養教育と専門教育が連動した体系的な教育を実施するとともに、教育課程の継続的な評価・見直しを実施。 ② 医療職として長期的ビジョンに立ったキャリア形成ができるキャリア教育の充実。 ③ 学生が主体的に学ぶ姿勢や科学的思考を育むための授業内容の工夫や指導方法の改善。	○教務課 引き続き、 ① 教養教育と専門教育が連動した体系的な教育を実施するとともに、教育課程の継続的な評価・見直しを実施。 ② 医療職として長期的ビジョンに立ったキャリア形成ができるキャリア教育の充実。 ③ 学生が主体的に学ぶ姿勢や科学的思考を育むための授業内容の工夫や指導方法の改善。	○教務課 引き続き、 ① 教養教育と専門教育が連動した体系的な教育を実施するとともに、教育課程の継続的な評価・見直しを実施。 ② 医療職として長期的ビジョンに立ったキャリア形成ができるキャリア教育の充実。 ③ 学生が主体的に学ぶ姿勢や科学的思考を育むための授業内容の工夫や指導方法の改善。	○教務課 引き続き、 ① 教養教育と専門教育が連動した体系的な教育を実施するとともに、教育課程の継続的な評価・見直しを実施。 ② 医療職として長期的ビジョンに立ったキャリア形成ができるキャリア教育の充実。 ③ 学生が主体的に学ぶ姿勢や科学的思考を育むための授業内容の工夫や指導方法の改善。	○教務課 引き続き、 ① 教養教育と専門教育が連動した体系的な教育を実施するとともに、教育課程の継続的な評価・見直しを実施。 ② 医療職として長期的ビジョンに立ったキャリア形成ができるキャリア教育の充実。 ③ 学生が主体的に学ぶ姿勢や科学的思考を育むための授業内容の工夫や指導方法の改善。	○教務課 引き続き、 ① 教養教育と専門教育が連動した体系的な教育を実施するとともに、教育課程の継続的な評価・見直しを実施。 ② 医療職として長期的ビジョンに立ったキャリア形成ができるキャリア教育の充実。 ③ 学生が主体的に学ぶ姿勢や科学的思考を育むための授業内容の工夫や指導方法の改善。

# 中長期計画一覧表（2018～2023年度分）

大項目	中項目	小項目	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
教育研究等の質の向上	基礎学力の強化と検証	大学院の充実を意図した教育内容の評価	○教務課 専門科目と共通科目が連動した体系的な教育を実施するとともに、教育課程の継続的な評価・見直しの実施。	○教務課 引き続き、専門科目と共通科目が連動した体系的な教育を実施するとともに、教育課程の継続的な評価・見直しの実施。	○教務課 引き続き、専門科目と共通科目が連動した体系的な教育を実施するとともに、教育課程の継続的な評価・見直しの実施。	○教務課 引き続き、専門科目と共通科目が連動した体系的な教育を実施するとともに、教育課程の継続的な評価・見直しの実施。	○教務課 引き続き、専門科目と共通科目が連動した体系的な教育を実施するとともに、教育課程の継続的な評価・見直しの実施。	○教務課 引き続き、専門科目と共通科目が連動した体系的な教育を実施するとともに、教育課程の継続的な評価・見直しの実施。
		教育の実施体制	○教務課 ① 地域社会が本学の教育研究活動に期待する役割を常に意識しながら、教育組織の見直しや教員の適正配置を検討。 ② 教員による相互評価や研修の実施など授業内容・方法を改善・向上させるための組織的な取組（ファカルティ・ディベロップメント）の充実・強化。 ③ 留学生の受け入れや学生の海外留学に対する全学的な支援体制を強化。 ④ 図書館の館内環境の整備や、ICTを積極的に活用した学修環境を充実するため取組む。 ⑤ 教員の能力や業績を公平かつ客観的に評価する制度の導入を検討。また、その評価結果に基づいて、教員の能力開発や教育の質的向上を促す仕組みの導入を検討。 ⑥ 大学院では、専攻分野の専門性を高めるため、研究指導や教育支援体制の改善に努め、細やかな教育研究指導を実施。	○教務課 引き続き、 ① 地域社会が本学の教育研究活動に期待する役割を常に意識しながら、教育組織の見直しや教員の適正配置を検討。 ② 教員による相互評価や研修の実施など授業内容・方法を改善・向上させるための組織的な取組（ファカルティ・ディベロップメント）の充実・強化。 ③ 留学生の受け入れや学生の海外留学に対する全学的な支援体制を強化。 ④ 図書館の館内環境の整備や、ICTを積極的に活用した学修環境を充実するため取組む。 ⑤ 教員の能力や業績を公平かつ客観的に評価する制度の導入を検討。また、その評価結果に基づいて、教員の能力開発や教育の質的向上を促す仕組みの導入を検討。 ⑥ 大学院では、専攻分野の専門性を高めるため、研究指導や教育支援体制の改善に努め、細やかな教育研究指導を実施。	○教務課 引き続き、 ① 地域社会が本学の教育研究活動に期待する役割を常に意識しながら、教育組織の見直しや教員の適正配置を検討。 ② 教員による相互評価や研修の実施など授業内容・方法を改善・向上させるための組織的な取組（ファカルティ・ディベロップメント）の充実・強化。 ③ 留学生の受け入れや学生の海外留学に対する全学的な支援体制を強化。 ④ 図書館の館内環境の整備や、ICTを積極的に活用した学修環境を充実するため取組む。 ⑤ 教員の能力や業績を公平かつ客観的に評価する制度の導入し、試行。また、その評価結果に基づいて、教員の能力開発や教育の質的向上を促す仕組みを実施。 ⑥ 大学院では、専攻分野の専門性を高めるため、研究指導や教育支援体制の改善に努め、細やかな教育研究指導を実施。	○教務課 引き続き、 ① 地域社会が本学の教育研究活動に期待する役割を常に意識しながら、教育組織の見直しや教員の適正配置を検討。 ② 教員による相互評価や研修の実施など授業内容・方法を改善・向上させるための組織的な取組（ファカルティ・ディベロップメント）の充実・強化。 ③ 留学生の受け入れや学生の海外留学に対する全学的な支援体制を強化。 ④ 図書館の館内環境の整備や、ICTを積極的に活用した学修環境を充実するため取組む。 ⑤ 教員の能力や業績を公平かつ客観的に評価する制度を本格実施。また、その評価結果に基づいて、教員の能力開発や教育の質的向上を促す仕組みを実施。 ⑥ 大学院では、専攻分野の専門性を高めるため、研究指導や教育支援体制の改善に努め、細やかな教育研究指導を実施。	○教務課 引き続き、 ① 地域社会が本学の教育研究活動に期待する役割を常に意識しながら、教育組織の見直しや教員の適正配置を検討。 ② 教員による相互評価や研修の実施など授業内容・方法を改善・向上させるための組織的な取組（ファカルティ・ディベロップメント）の充実・強化。 ③ 留学生の受け入れや学生の海外留学に対する全学的な支援体制を強化。 ④ 図書館の館内環境の整備や、ICTを積極的に活用した学修環境を充実するため取組む。 ⑤ 教員の能力や業績を公平かつ客観的に評価する制度を実施。また、その評価結果に基づいて、教員の能力開発や教育の質的向上を促す仕組みを実施。 ⑥ 大学院では、専攻分野の専門性を高めるため、研究指導や教育支援体制の改善に努め、細やかな教育研究指導を実施。	○教務課 引き続き、 ① 地域社会が本学の教育研究活動に期待する役割を常に意識しながら、教育組織の見直しや教員の適正配置を検討。 ② 教員による相互評価や研修の実施など授業内容・方法を改善・向上させるための組織的な取組（ファカルティ・ディベロップメント）の充実・強化。 ③ 留学生の受け入れや学生の海外留学に対する全学的な支援体制を強化。 ④ 図書館の館内環境の整備や、ICTを積極的に活用した学修環境を充実するため取組む。 ⑤ 教員の能力や業績を公平かつ客観的に評価する制度を実施。また、その評価結果に基づいて、教員の能力開発や教育の質的向上を促す仕組みを実施。 ⑥ 大学院では、専攻分野の専門性を高めるため、研究指導や教育支援体制の改善に努め、細やかな教育研究指導を実施。
		学生のPC必携可、ペーパーレス化の推進	○情報センター 必要性や期待される効果に関する検討の開始。	○情報センター 全教室に無線LANの整備。基幹ネットワーク(有線LAN)の整備を開始。	○情報センター 学内すべての施設での無線LAN使用可。開学時より使用してきた基幹ネットワーク(有線LAN)の整備完了。	○情報センター 整備した効果の検証。	○情報センター 検証結果に基づいた次期整備計画の検討。	
		授業収録・配信の必要性や効果の検証・実施	○情報センター 必要性や期待される効果に関する調査の実施。	○情報センター 必要性や期待される効果に関する検討の開始。	○情報センター 授業収録・配信を一部の授業で試験的に実施。	○情報センター 授業収録・配信の検証と整備の実施。	○情報センター 授業収録・配信を本格稼働の開始。	
		授業・研究で役に立つコンテンツの整備	○情報センター 教職員の希望調査・他学のコンテンツの調査を開始。	○情報センター 調査結果を精査し、コンテンツを設計。	○情報センター コンテンツの整備開始。	○情報センター 整備完了したコンテンツを教職員・学生に公開し運営開始。	○情報センター コンテンツ運営による基礎学力に関する検証。	
		学生ニーズの把握と分析	学生サポート体制	○3学科、学務部 以下の基本方針で臨み、毎年改善状況を検証し、前年比前年改善を目標とする。 入学前から卒業（国試合格・就職）までの一貫した学生サポート体制の構築、「少人数制で面倒見のいい大学」の大学ブランド作り、本学の取組みを情報公開、広報活動に反映、受験者・社会からの信頼確立による定員充足・学生の質向上・定着率向上 ①入試成績、各学年成績、国試結果、就職までの学修行動追跡調査の結果を分析し学生指導に反映。教職協働体制を整備・確立し、卒業までの各段階で得られる各学生の成績等を統合して把握可能な体制の整備。 ②「学生生活・学修時間・行動」に関する調査の定例化、IR部門による分析による改善。	○3学科、学務部 引き続き、以下の基本方針で臨み、毎年改善状況を検証し、前年比前年改善を目標とする。 入学前から卒業（国試合格・就職）までの一貫した学生サポート体制の構築、「少人数制で面倒見のいい大学」の大学ブランド作り、本学の取組みを情報公開、広報活動に反映、受験者・社会からの信頼確立による定員充足・学生の質向上・定着率向上 ①入試成績、各学年成績、国試結果、就職までの学修行動追跡調査の結果を分析し学生指導に反映。教職協働体制を整備・確立し、卒業までの各段階で得られる各学生の成績等を統合して把握可能な体制の整備。 ②「学生生活・学修時間・行動」に関する調査の定例化、IR部門による分析による改善。	○3学科、学務部 引き続き、以下の基本方針で臨み、毎年改善状況を検証し、前年比前年改善を目標とする。 入学前から卒業（国試合格・就職）までの一貫した学生サポート体制の構築、「少人数制で面倒見のいい大学」の大学ブランド作り、本学の取組みを情報公開、広報活動に反映、受験者・社会からの信頼確立による定員充足・学生の質向上・定着率向上 ①入試成績、各学年成績、国試結果、就職までの学修行動追跡調査の結果を分析し学生指導に反映。教職協働体制を整備・確立し、卒業までの各段階で得られる各学生の成績等を統合して把握可能な体制の整備。 ②「学生生活・学修時間・行動」に関する調査の定例化、IR部門による分析による改善。	○3学科、学務部 左記学生サポート体制の継続・検証・改善に関するPDCAサイクルの推進。	○3学科、学務部 引き続き、左記学生サポート体制の継続・検証・改善に関するPDCAサイクルの推進。

# 中長期計画一覧表（2018～2023年度分）

大項目	中項目	小項目	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	
	学生ニーズの把握と分析	教育の質の充実を目的とした授業評価アンケートの実施	○3学科、学務部 ・授業評価アンケートより得られた結果を教員へフィードバックし個々の改善を推進。 ・学生の要望を把握し対策を講じ、教員間連携を深めるために情報共有体制の強化を実施。	○3学科、学務部 引き続き、 ・授業評価アンケートより得られた結果を教員へフィードバックし個々の改善を推進。 ・学生の要望を把握し対策を講じ、教員間連携を深めるために情報共有体制の強化を実施。	○3学科、学務部 引き続き、 ・授業評価アンケートより得られた結果を教員へフィードバックし個々の改善を推進。 ・学生の要望を把握し対策を講じ、教員間連携を深めるために情報共有体制の強化を実施。	○3学科、学務部 引き続き、 ・授業評価アンケートより得られた結果を教員へフィードバックし個々の改善を推進。 ・学生の要望を把握し対策を講じ、教員間連携を深めるために情報共有体制の強化を実施。	○3学科、学務部 引き続き、 ・授業評価アンケートより得られた結果を教員へフィードバックし個々の改善を推進。 ・学生の要望を把握し対策を講じ、教員間連携を深めるために情報共有体制の強化を実施。	○3学科、学務部 引き続き、 ・授業評価アンケートより得られた結果を教員へフィードバックし個々の改善を推進。 ・学生の要望を把握し対策を講じ、教員間連携を深めるために情報共有体制の強化を実施。	
		アドバイザーによる学生の学習意欲等の把握（基礎学力の強化と検証の再掲）	○3学科 学生ニーズ等に関わるPDCAサイクルの徹底。	○3学科 引き続き、学生ニーズ等に関わるPDCAサイクルの徹底。	○3学科 引き続き、学生ニーズ等に関わるPDCAサイクルの徹底。	○3学科 引き続き、学生ニーズ等に関わるPDCAサイクルの徹底。	○3学科 引き続き、学生ニーズ等に関わるPDCAサイクルの徹底。	○3学科 引き続き、学生ニーズ等に関わるPDCAサイクルの徹底。	○3学科 引き続き、学生ニーズ等に関わるPDCAサイクルの徹底。
		意見箱の活用	○全学 学生ニーズの把握のための意見箱のさらなる活用。	○全学 投函された意見を該当委員会にて検討するとともに成果の検証を実施。	○全学 引き続き、投函された意見を該当委員会にて検討するとともに成果の検証を実施。	○全学 引き続き、投函された意見を該当委員会にて検討するとともに成果の検証を実施。	○全学 引き続き、投函された意見を該当委員会にて検討するとともに成果の検証を実施。	○全学 引き続き、投函された意見を該当委員会にて検討するとともに成果の検証を実施。	○全学 引き続き、投函された意見を該当委員会にて検討するとともに成果の検証を実施。
		積極的な課外活動（サークル活動など）の支援	○学生委員会 部活動やサークル活動において、他大学との交流を含めた積極的な課外活動支援の継続強化。	○学生委員会 引き続き、部活動やサークル活動において、他大学との交流を含めた積極的な課外活動支援の継続強化。	○学生委員会 引き続き、部活動やサークル活動において、他大学との交流を含めた積極的な課外活動支援の継続強化。	○学生委員会 引き続き、部活動やサークル活動において、他大学との交流を含めた積極的な課外活動支援の継続強化。	○学生委員会 引き続き、部活動やサークル活動において、他大学との交流を含めた積極的な課外活動支援の継続強化。	○学生委員会 引き続き、部活動やサークル活動において、他大学との交流を含めた積極的な課外活動支援の継続強化。	○学生委員会 引き続き、部活動やサークル活動において、他大学との交流を含めた積極的な課外活動支援の継続強化。
教育研究等の質の向上	退学率の改善	留年者、退学者対策	○3学科、学務部 退学者の原因分析調査を実施し、学修行動調査との連携で退学要因の分析を行い、現在大学の歩留率は鍼灸79%、柔整81%、看護89%であり、これらを鍼灸・柔整10%up、看護5%upを目標とし対策を実行。 ① 入学前・入学以降の学生支援内容の学内共有化により、退学意向の早期発見・予防支援の学内体制強化。さらに成績・欠席・学費納入情報の共有。 ② 学生相談室と教員の連携推進により、学生相談室の機能を強化し支援学生への早期対応を実施。 ③ 経済困難者への学内授業料免除制度を制定。	○3学科、学務部 引き続き、退学者の原因分析調査を実施し、学修行動調査との連携で退学要因の分析を行い、対策を実行。 ③ 経済困難者への学内授業料免除制度の実施。	○3学科、学務部 引き続き、退学者の原因分析調査を実施し、学修行動調査との連携で退学要因の分析を行い、対策を実行。	○3学科、学務部 左記学生サポート体制の継続・検証・改善。 PDCAサイクルの推進。	○3学科、学務部 引き続き、左記学生サポート体制の継続・検証・改善。 PDCAサイクルの推進。	○3学科、学務部 引き続き、左記学生サポート体制の継続・検証・改善。 PDCAサイクルの推進。	
		出欠管理の徹底	○3学科 アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	○3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	○3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	○3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	○3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	○3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	
		アドバイザーによる成績不良者等要指導者に対する継続指導の徹底	○3学科 学生の現状把握ときめ細かい指導環境の充実を図り、退学率0%を目指し、アドバイザー制度の徹底およびPDCAサイクルの実施。	○3学科 学生の現状把握ときめ細かい指導環境の充実を図り、退学率0%を目指し、アドバイザー制度の徹底およびPDCAサイクルの実施。	○3学科 学生の現状把握ときめ細かい指導環境の充実を図り、退学率0%を目指し、アドバイザー制度の徹底およびPDCAサイクルの実施。	○3学科 学生の現状把握ときめ細かい指導環境の充実を図り、退学率0%を目指し、アドバイザー制度の徹底およびPDCAサイクルの実施。	○3学科 学生の現状把握ときめ細かい指導環境の充実を図り、退学率0%を目指し、アドバイザー制度の徹底およびPDCAサイクルの実施。	○3学科 学生の現状把握ときめ細かい指導環境の充実を図り、退学率0%を目指し、アドバイザー制度の徹底およびPDCAサイクルの実施。	○3学科 学生の現状把握ときめ細かい指導環境の充実を図り、退学率0%を目指し、アドバイザー制度の徹底およびPDCAサイクルの実施。
			○3学科 引き続き、低学力学生の早期スクリーニングシステムの確立。 ・学生相談室(特別支援教室)の研修生・研究生・外部者などによる有効利用。 ・成績不振による留年者を出さないために日頃より継続した学力向上を目指した補講の実施。	○3学科 引き続き、 ・低学力学生の早期スクリーニングシステムの確立。 ・学生相談室(特別支援教室)の研修生・研究生・外部者などによる有効利用。 ・成績不振による留年者を出さないために日頃より継続した学力向上の取組みを目指した補講の実施。	○3学科 引き続き、 ・低学力学生の早期スクリーニングシステムの確立。 ・学生相談室(特別支援教室)の研修生・研究生・外部者などによる有効利用。 ・成績不振による留年者を出さないために日頃より継続した学力向上の取組みを目指した補講の実施。	○3学科 引き続き、 ・低学力学生の早期スクリーニングシステムの確立。 ・学生相談室(特別支援教室)の研修生・研究生・外部者などによる有効利用。 ・成績不振による留年者を出さないために日頃より継続した学力向上の取組みを目指した補講の実施。	○3学科 引き続き、 ・低学力学生の早期スクリーニングシステムの確立。 ・学生相談室(特別支援教室)の研修生・研究生・外部者などによる有効利用。 ・成績不振による留年者を出さないために日頃より継続した学力向上の取組みを目指した補講の実施。	○3学科 引き続き、 ・低学力学生の早期スクリーニングシステムの確立。 ・学生相談室(特別支援教室)の研修生・研究生・外部者などによる有効利用。 ・成績不振による留年者を出さないために日頃より継続した学力向上の取組みを目指した補講の実施。	

# 中長期計画一覧表（2018～2023年度分）

大項目	中項目	小項目	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	
教育研究等の質の向上	退学率の改善	学生支援室(特別支援教室)設置および支援室への大学院生・研究生・卒業生などの有効利用	○3学科、学務部 教員と学生相談室間のネットワークの充実させるための学生支援室(特別支援教室)設置の検討。	○3学科、学務部 学生相談室(特別支援教室)の設置による研修生・研究生・外部者などの有効利用開始。	○3学科、学務部 学生相談室(特別支援教室)の設置による研修生・研究生・外部者などの有効利用開始。	○3学科、学務部 学生相談室(特別支援教室)の設置による研修生・研究生・外部者などの有効利用開始。	○3学科、学務部 学生相談室(特別支援教室)の設置による研修生・研究生・外部者などの有効利用開始。	○3学科、学務部 学生相談室(特別支援教室)の設置による研修生・研究生・外部者などの有効利用開始。	
		経済的側面に対する支援制度の継続的実施	○財務部、学務部 授業料減免制度など、経済的困難者に向けた支援制度の検討。	○財務部、学務部 授業料減免制度など、経済的困難者に向けた支援制度の実施。	○財務部、学務部 授業料減免制度など、経済的困難者に向けた支援制度の継続実施。	○財務部、学務部 授業料減免制度など、経済的困難者に向けた支援制度の継続実施。	○財務部、学務部 授業料減免制度など、経済的困難者に向けた支援制度の継続実施。	○財務部、学務部 授業料減免制度など、経済的困難者に向けた支援制度の継続実施。	
		保護者との連携強化	○3学科 退学者の未然防止のため、保護者への成績表の郵送および、必要に応じて、保護者面談を実施。	○3学科 引き続き、退学者の未然防止のため、保護者への成績表の郵送および、必要時、保護者面談を実施。	○3学科 引き続き、退学者の未然防止のため、保護者への成績表の郵送および、必要時、保護者面談を実施。	○3学科 引き続き、退学者の未然防止のため、保護者への成績表の郵送および、必要時、保護者面談を実施。	○3学科 引き続き、退学者の未然防止のため、保護者への成績表の郵送および、必要時、保護者面談を実施。	○3学科 引き続き、退学者の未然防止のため、保護者への成績表の郵送および、必要時、保護者面談を実施。	○3学科 引き続き、退学者の未然防止のため、保護者への成績表の郵送および、必要時、保護者面談を実施。
		入学時点におけるミスマッチングの防止	○看護学科 指定校推薦制度の強化。	○看護学科 引き続き、指定校推薦制度の強化。	○看護学科 引き続き、指定校推薦制度の強化。	○看護学科 引き続き、指定校推薦制度の強化。	○看護学科 引き続き、指定校推薦制度の強化。	○看護学科 引き続き、指定校推薦制度の強化。	○看護学科 引き続き、指定校推薦制度の強化。
			○看護学科 指定校からの入学者の評価。	○看護学科 引き続き、指定校からの入学者の評価。	○看護学科 引き続き、指定校からの入学者の評価。	○看護学科 引き続き、指定校からの入学者の評価。	○看護学科 引き続き、指定校からの入学者の評価。	○看護学科 引き続き、指定校からの入学者の評価。	○看護学科 引き続き、指定校からの入学者の評価。
		学務システムの改善と有効活用	○情報センター 学力や経済状況、通学時間などの生活状況を可視化する等学務システムの有効活用のための検討を開始。	○情報センター 学務システムの有効活用について取り組みに着手。 学務システムのバージョンアップ(予定)。	○情報センター 学務システムの有効活用の推進。	○情報センター 学務システムの活用状況を検証。	○情報センター 学務システムの活用状況を検証。	○情報センター 学務システムの活用状況を検証。	○情報センター 学務システムの活用状況を検証。
	地域連携の構築	治療体験・健康相談等実施(附属鍼灸センター)	○鍼灸学科 鍼灸治療体験や健康相談等による地域協力推進。	○鍼灸学科 引き続き、鍼灸治療体験や健康相談等による地域協力推進。	○鍼灸学科 引き続き、鍼灸治療体験や健康相談等による地域協力推進。	○鍼灸学科 引き続き、鍼灸治療体験や健康相談等による地域協力推進。	○鍼灸学科 引き続き、鍼灸治療体験や健康相談等による地域協力推進。	○鍼灸学科 引き続き、鍼灸治療体験や健康相談等による地域協力推進。	
		研究を含めた来院患者等に関連した医療機関との連携推進(附属鍼灸センター)	○鍼灸学科 研究を含めた附属鍼灸センター来院患者等に関連した医療機関との連携推進。	○鍼灸学科 研究を含めた附属鍼灸センター来院患者等に関連した医療機関との連携推進。	○鍼灸学科 研究を含めた附属鍼灸センター来院患者等に関連した医療機関との連携推進。	○鍼灸学科 研究を含めた附属鍼灸センター来院患者等に関連した医療機関との連携推進。	○鍼灸学科 研究を含めた附属鍼灸センター来院患者等に関連した医療機関との連携推進。	○鍼灸学科 研究を含めた附属鍼灸センター来院患者等に関連した医療機関との連携推進。	
		高校生・地域向けセミナー等の開催	○鍼灸学科 附属鍼灸センターや学科による地域向けセミナー等の開催。	○鍼灸学科 引き続き、附属鍼灸センターや学科による地域向けセミナー等の開催。	○鍼灸学科 引き続き、附属鍼灸センターや学科による地域向けセミナー等の開催。	○鍼灸学科 引き続き、附属鍼灸センターや学科による地域向けセミナー等の開催。	○鍼灸学科 引き続き、附属鍼灸センターや学科による地域向けセミナー等の開催。	○鍼灸学科 引き続き、附属鍼灸センターや学科による地域向けセミナー等の開催。	
		行政(江東区)及び有明スポーツセンターとの連携	○鍼灸学科 ・行政(江東区)との連携。 ・有明スポーツセンターとの連携。	○鍼灸学科 ・引き続き、行政(江東区)との連携。 ・引き続き、有明スポーツセンターとの連携。	○鍼灸学科 ・引き続き、行政(江東区)との連携。 ・引き続き、有明スポーツセンターとの連携。	○鍼灸学科 ・引き続き、行政(江東区)との連携。 ・引き続き、有明スポーツセンターとの連携。	○鍼灸学科 ・引き続き、行政(江東区)との連携。 ・引き続き、有明スポーツセンターとの連携。	○鍼灸学科 ・引き続き、行政(江東区)との連携。 ・引き続き、有明スポーツセンターとの連携。	
		本学の人的資源を活かした連携	○柔道整復学科 地域連携として近隣中学校の授業(柔道)の支援や地域の子供達を対象にした少年柔道教室を開講し、さらなる連携強化を継続。	○柔道整復学科 引き続き、地域連携として近隣中学校の授業(柔道)の支援や地域の子供達を対象にした少年柔道教室を開講し、さらなる連携強化を継続。	○柔道整復学科 引き続き、地域連携として近隣中学校の授業(柔道)の支援や地域の子供達を対象にした少年柔道教室を開講し、さらなる連携強化を継続。	○柔道整復学科 引き続き、地域連携として近隣中学校の授業(柔道)の支援や地域の子供達を対象にした少年柔道教室を開講し、さらなる連携強化を継続。	○柔道整復学科 引き続き、地域連携として近隣中学校の授業(柔道)の支援や地域の子供達を対象にした少年柔道教室を開講し、さらなる連携強化を継続。	○柔道整復学科 引き続き、地域連携として近隣中学校の授業(柔道)の支援や地域の子供達を対象にした少年柔道教室を開講し、さらなる連携強化を継続。	
		有明マンション連合自治会との連携	○柔道整復学科 引き続き、マンション対抗運動会などの行事へ参加し、さらなる地域連携を強化。	○柔道整復学科 引き続き、マンション対抗運動会などの行事へ参加し、さらなる地域連携を強化。	○柔道整復学科 引き続き、マンション対抗運動会などの行事へ参加し、さらなる地域連携を強化。	○柔道整復学科 引き続き、マンション対抗運動会などの行事へ参加し、さらなる地域連携を強化。	○柔道整復学科 引き続き、マンション対抗運動会などの行事へ参加し、さらなる地域連携を強化。	○柔道整復学科 引き続き、マンション対抗運動会などの行事へ参加し、さらなる地域連携を強化。	
附属クリニック/接骨センターの活用	○柔道整復学科 附属クリニック・接骨センターの充実を図り、地域住民の健康の保持・増進はもとより、地域住民が安心して暮らせる環境の提供を継続。	○柔道整復学科 引き続き、附属クリニック・接骨センターの充実を図り、地域住民の健康の保持・増進はもとより、地域住民が安心して暮らせる環境の提供を継続。	○柔道整復学科 引き続き、附属クリニック・接骨センターの充実を図り、地域住民の健康の保持・増進はもとより、地域住民が安心して暮らせる環境の提供を継続。	○柔道整復学科 引き続き、附属クリニック・接骨センターの充実を図り、地域住民の健康の保持・増進はもとより、地域住民が安心して暮らせる環境の提供を継続。	○柔道整復学科 引き続き、附属クリニック・接骨センターの充実を図り、地域住民の健康の保持・増進はもとより、地域住民が安心して暮らせる環境の提供を継続。	○柔道整復学科 引き続き、附属クリニック・接骨センターの充実を図り、地域住民の健康の保持・増進はもとより、地域住民が安心して暮らせる環境の提供を継続。			

# 中長期計画一覧表（2018～2023年度分）

大項目	中項目	小項目	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	
地域連携の構築	図書館の開放	図書館の開放	○図書館 図書館を無料開放するなどの環境整備を進め、地域との交流を促進を検討。	○図書館 引き続き、図書館を無料開放するなどの環境整備を進め、地域との交流を促進。	○図書館 引き続き、図書館を無料開放するなどの環境整備を進め、地域との交流を促進。	○図書館 引き続き、図書館を無料開放するなどの環境整備を進め、地域との交流を促進。	○図書館 引き続き、図書館を無料開放するなどの環境整備を進め、地域との交流を促進。	○図書館 引き続き、図書館を無料開放するなどの環境整備を進め、地域との交流を促進。	
		江東区内各所におけるボランティア実習	○看護学科 ボランティア実習の導入検討（老年看護学）	○看護学科 ボランティア実習導入（老年看護学）	○看護学科 ボランティア実習導入（および導入効果の評価（老年看護学））	○看護学科 ボランティア実習導入（および導入効果の評価（老年看護学））	○看護学科 ボランティア実習導入（および導入効果の評価（老年看護学））	○看護学科 ボランティア実習導入（および導入効果の評価（老年看護学））	
		公衆衛生看護学実習先企業の健康管理業務への提言	○看護学科 引き続き、公衆衛生看護学実習先企業との協定実施。	○看護学科 引き続き、公衆衛生看護学実習先企業との協定実施。	○看護学科 引き続き、公衆衛生看護学実習先企業との協定実施。	○看護学科 引き続き、公衆衛生看護学実習先企業との協定実施。	○看護学科 引き続き、公衆衛生看護学実習先企業との協定実施。	○看護学科 引き続き、公衆衛生看護学実習先企業との協定実施。	
		シミュレーション・ラボにおける訪問看護師の卒後教育の実施	○看護学科 学生教育用シミュレーション・ラボの整備を検討。	○看護学科 学生教育用シミュレーション・ラボの整備及び協定先の訪問看護師の実技演習受け入れ。	○看護学科 学生教育用シミュレーション・ラボへの協定先の訪問看護師の実技演習受け入れ及び評価。	○看護学科 学生教育用シミュレーション・ラボへの協定先の訪問看護師の実技演習受け入れ及び評価。	○看護学科 学生教育用シミュレーション・ラボへの協定先の訪問看護師の実技演習受け入れ及び評価。	○看護学科 学生教育用シミュレーション・ラボへの協定先の訪問看護師の実技演習受け入れ及び評価。	
	共同研究の推進（他大学/他学科）	共同研究の推進（他大学/他学科）	○3学科 これまで他大学との共同研究を推進してきたが、さらなる学内外の共同研究を推進するための環境整備を実施。	○3学科 引き続き、学内外の共同研究を推進するための環境整備を実施。	○3学科 引き続き、学内外の共同研究を推進するための環境整備を実施。	○3学科 引き続き、学内外の共同研究を推進するための環境整備を実施。	○3学科 引き続き、学内外の共同研究を推進するための環境整備を実施。	○3学科 引き続き、学内外の共同研究を推進するための環境整備を実施。	
		国際交流推進	国際交流推進	○学務部 国際交流センター支援体制の強化（実務スタッフの配置・補助金獲得体制） ・大学間交流協定に基づく交流の活性化（派遣と受入）⇒具体的案件対応を踏まえて、支援体制を毎年段階的に整備強化していく。 ①学生間の交流推進 学部・大学院留学派遣支援。 ②教員間（研究者）の研究者交流、共同研究推進、派遣支援体制の強化。	○学務部 引き続き、国際交流センター支援体制の強化（実務スタッフの配置・補助金獲得体制）を継続。 ・大学間交流協定に基づく交流の活性化（派遣と受入）⇒具体的案件対応を踏まえて、支援体制を毎年段階的に整備強化していく。 ①学生間の交流推進 学部・大学院留学派遣支援。 ②教員間（研究者）の研究者交流、共同研究推進、派遣支援体制の強化。	○学務部 引き続き、国際交流センター支援体制の強化（実務スタッフの配置・補助金獲得体制）を継続。 ・大学間交流協定に基づく交流の活性化（派遣と受入）⇒具体的案件対応を踏まえて、支援体制を毎年段階的に整備強化していく。 ①学生間の交流推進 学部・大学院留学派遣支援。 ②教員間（研究者）の研究者交流、共同研究推進、派遣支援体制の強化。	○学務部 左記国際交流推進体制の継続・検証・改善を実施。 PDCAサイクルの推進。	○学務部 引き続き、左記国際交流推進体制の継続・検証・改善。 PDCAサイクルの推進。	○学務部 引き続き、左記国際交流推進体制の継続・検証・改善。 PDCAサイクルの推進。
			MCPHS大学、ハーバード大学、イリノイ州立大学への教員派遣と学生研修	○鍼灸学科 教育の質の向上を目的とし、MCPHS大学、ハーバード大学、イリノイ州立大学へ教員派遣と学生研修。	○鍼灸学科 引き続き、教育の質の向上を目的とし、MCPHS大学、ハーバード大学、イリノイ州立大学へ教員派遣と学生研修。	○鍼灸学科 引き続き、教育の質の向上を目的とし、MCPHS大学、ハーバード大学、イリノイ州立大学へ教員派遣と学生研修。	○鍼灸学科 引き続き、教育の質の向上を目的とし、MCPHS大学、ハーバード大学、イリノイ州立大学へ教員派遣と学生研修。	○鍼灸学科 引き続き、教育の質の向上を目的とし、MCPHS大学、ハーバード大学、イリノイ州立大学へ教員派遣と学生研修。	○鍼灸学科 引き続き、教育の質の向上を目的とし、MCPHS大学、ハーバード大学、イリノイ州立大学へ教員派遣と学生研修。
			シンガポール国立大学看護学部	○看護学科 引き続き、学生派遣・受け入れ及び教員間の研究・交流の推進。	○看護学科 引き続き、学生派遣・受け入れ及び教員間の研究・交流の推進。	○看護学科 引き続き、学生派遣・受け入れ及び教員間の研究・交流の推進。	○看護学科 引き続き、学生派遣・受け入れ及び教員間の研究・交流の推進。	○看護学科 引き続き、学生派遣・受け入れ及び教員間の研究・交流の推進。	○看護学科 引き続き、学生派遣・受け入れ及び教員間の研究・交流の推進。
			オーストラリアCharles Sturt大学	○看護学科 学生派遣・受け入れ及び教員間の研究・交流の準備開始。	○看護学科 学生派遣・受け入れ及び教員間の研究・交流の推進。	○看護学科 学生派遣・受け入れ及び教員間の研究・交流の推進。	○看護学科 学生派遣・受け入れ及び教員間の研究・交流の推進。	○看護学科 学生派遣・受け入れ及び教員間の研究・交流の推進。	○看護学科 学生派遣・受け入れ及び教員間の研究・交流の推進。
			モンゴル国立医療科学大学	○柔道整復学科 これまで柔道整復学教育のために実施してきた教員派遣を継続し、さらなる国際交流を推進。 ・留学生受入れなどによる大学間連携のさらなる強化を実施。	○柔道整復学科 引き続き、これまで柔道整復学教育のために実施してきた教員派遣を継続し、さらなる国際交流を推進。 ・留学生受入れなどによる大学間連携のさらなる強化を実施。	○柔道整復学科 引き続き、これまで柔道整復学教育のために実施してきた教員派遣を継続し、さらなる国際交流を推進。 ・留学生受入れなどによる大学間連携のさらなる強化を実施。	○柔道整復学科 引き続き、これまで柔道整復学教育のために実施してきた教員派遣を継続し、さらなる国際交流を推進。 ・留学生受入れなどによる大学間連携のさらなる強化を実施。	○柔道整復学科 引き続き、これまで柔道整復学教育のために実施してきた教員派遣を継続し、さらなる国際交流を推進。 ・留学生受入れなどによる大学間連携のさらなる強化を実施。	○柔道整復学科 引き続き、これまで柔道整復学教育のために実施してきた教員派遣を継続し、さらなる国際交流を推進。 ・留学生受入れなどによる大学間連携のさらなる強化を実施。
			龍仁大学校（韓国）	○柔道整復学科 これまで武道（柔道・龍武道）を通じ連携を実施。学園卒業生（柔道整復師）が韓国柔道チームのコーチを行うことも決まっており、武道を通じた大学間連携の継続推進。	○柔道整復学科 引き続き、武道（柔道・龍武道）を通じた大学間連携の継続推進。	○柔道整復学科 引き続き、武道（柔道・龍武道）を通じた大学間連携の継続推進。	○柔道整復学科 引き続き、武道（柔道・龍武道）を通じた大学間連携の継続推進。	○柔道整復学科 引き続き、武道（柔道・龍武道）を通じた大学間連携の継続推進。	○柔道整復学科 引き続き、武道（柔道・龍武道）を通じた大学間連携の継続推進。



# 中長期計画一覧表（2018～2023年度分）

大項目	中項目	小項目	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
財政基盤の安定	入学者数の確保	定員、学費、資格（あん摩マッサージ指圧師）、広報関連	○鍼灸学科 専門職大学院との差別化について比較検討を実施。	○鍼灸学科 引き続き、専門職大学院との差別化について比較検討を実施。	○鍼灸学科 検討結果に応じ、対策を講じる。			
			○鍼灸学科 定員充足を目的とした、ダブルライセンス、学科内コース（スポーツ鍼灸、美容鍼灸、一般鍼灸コース）、あん摩マッサージ指圧師コース等の検討	○鍼灸学科 引き続き、定員充足を目的とした、ダブルライセンス、学科内コース（スポーツ鍼灸、美容鍼灸、一般鍼灸コース）、あん摩マッサージ指圧師コース等の検討	○鍼灸学科 検討結果に応じ、対策を講じる。			
		高校訪問の実施	○全学 本学の認知度を高めるため、つながりの深い教員が所属する高校や入学実績のある高校への訪問など積極的な募集活動の展開。	○全学 引き続き、本学の認知度を高めるため、つながりの深い教員が所属する高校や入学実績のある高校への訪問など積極的な募集活動の展開。	○全学 引き続き、本学の認知度を高めるため、つながりの深い教員が所属する高校や入学実績のある高校への訪問など積極的な募集活動の展開。	○全学 引き続き、本学の認知度を高めるため、つながりの深い教員が所属する高校や入学実績のある高校への訪問など積極的な募集活動の展開。	○全学 引き続き、本学の認知度を高めるため、つながりの深い教員が所属する高校や入学実績のある高校への訪問など積極的な募集活動の展開。	○全学 引き続き、本学の認知度を高めるため、つながりの深い教員が所属する高校や入学実績のある高校への訪問など積極的な募集活動の展開。
		スポーツ推薦入試の拡充	○柔道整復学科 スポーツに携わってきた在学生学生が多いため、スポーツ推薦入試のさらなる推進。	○柔道整復学科 引き続き、スポーツに携わってきた在学生学生が多いため、スポーツ推薦入試のさらなる推進。	○柔道整復学科 引き続き、スポーツに携わってきた在学生学生が多いため、スポーツ推薦入試のさらなる推進。	○柔道整復学科 引き続き、スポーツに携わってきた在学生学生が多いため、スポーツ推薦入試のさらなる推進。	○柔道整復学科 引き続き、スポーツに携わってきた在学生学生が多いため、スポーツ推薦入試のさらなる推進。	○柔道整復学科 引き続き、スポーツに携わってきた在学生学生が多いため、スポーツ推薦入試のさらなる推進。
		指定校推薦枠拡大による優秀な学生の確保促進（入学時におけるミスマッチングの再掲）	○看護学科 指定校推薦制度の強化	○看護学科 引き続き、指定校推薦制度の強化。	○看護学科 引き続き、指定校推薦制度の強化。	○看護学科 引き続き、指定校推薦制度の強化。	○看護学科 引き続き、指定校推薦制度の強化。	○看護学科 引き続き、指定校推薦制度の強化。
			○看護学科 指定校からの入学者の評価。	○看護学科 引き続き、指定校からの入学者の評価。	○看護学科 引き続き、指定校からの入学者の評価。	○看護学科 引き続き、指定校からの入学者の評価。	○看護学科 引き続き、指定校からの入学者の評価。	○看護学科 引き続き、指定校からの入学者の評価。
		オープンキャンパス	○3学科 これまでオープンキャンパス参加者の入学率は高いことから、オープンキャンパスの参加者数の増加を図り、柔道整復について理解を深めるための企画・運営を実施。	○3学科 引き続き、参加者の入学率は高いことから、オープンキャンパスの参加者数の増加を図り、柔道整復について理解を深めるための企画・運営を実施。	○3学科 引き続き、参加者の入学率は高いことから、オープンキャンパスの参加者数の増加を図り、柔道整復について理解を深めるための企画・運営を実施。	○3学科 引き続き、参加者の入学率は高いことから、オープンキャンパスの参加者数の増加を図り、柔道整復について理解を深めるための企画・運営を実施。	○3学科 引き続き、参加者の入学率は高いことから、オープンキャンパスの参加者数の増加を図り、柔道整復について理解を深めるための企画・運営を実施。	○3学科 引き続き、参加者の入学率は高いことから、オープンキャンパスの参加者数の増加を図り、柔道整復について理解を深めるための企画・運営を実施。
		ホームページの充実	○アドミッションセンター 本学の認知度を高めるために、アドミッションセンター運営委員会を中心としたホームページコンテンツ（国家試験合格率の推移等）の充実。	○アドミッションセンター 引き続き、本学の認知度を高めるために、アドミッションセンター運営委員会を中心としたホームページコンテンツ（国家試験合格率の推移等）のさらなる整備。	○アドミッションセンター 引き続き、本学の認知度を高めるために、アドミッションセンター運営委員会を中心としたホームページコンテンツ（国家試験合格率の推移等）のさらなる整備。	○アドミッションセンター 引き続き、本学の認知度を高めるために、アドミッションセンター運営委員会を中心としたホームページコンテンツ（国家試験合格率の推移等）のさらなる整備。	○アドミッションセンター 引き続き、本学の認知度を高めるために、アドミッションセンター運営委員会を中心としたホームページコンテンツ（国家試験合格率の推移等）のさらなる整備。	○アドミッションセンター 引き続き、本学の認知度を高めるために、アドミッションセンター運営委員会を中心としたホームページコンテンツ（国家試験合格率の推移等）のさらなる整備。
		宣伝広告	○アドミッションセンター 宣伝広告による効果の検証を行い、より効果的かつ実現可能な宣伝広告の検討。	○アドミッションセンター 引き続き、宣伝広告による効果の検証を行い、より効果的かつ実現可能な宣伝広告の検討。	○アドミッションセンター 引き続き、検討結果の実行。	○アドミッションセンター 引き続き、検討結果の実行。	○アドミッションセンター 引き続き、検討結果の実行。	○アドミッションセンター 引き続き、検討結果の実行。
		卒業生へのアプローチ	○柔道整復学科 各地で活躍する卒業生にコンタクトを取り、本学の知名度を高める活動を依頼。 ・社会人経験のある学生の受入れ（例 社会人入試、編入学入試）体制の整備。	○柔道整復学科 引き続き、各地で活躍する卒業生にコンタクトを取り、本学の知名度を高める活動の依頼。 ・引き続き、さらなる社会人経験のある学生の受入れ（例 社会人入試、編入学入試）体制の整備。	○柔道整復学科 引き続き、各地で活躍する卒業生にコンタクトを取り、本学の知名度を高める活動の依頼。 ・引き続き、さらなる社会人経験のある学生の受入れ（例 社会人入試、編入学入試）体制の整備。	○柔道整復学科 引き続き、各地で活躍する卒業生にコンタクトを取り、本学の知名度を高める活動の依頼。 ・引き続き、さらなる社会人経験のある学生の受入れ（例 社会人入試、編入学入試）体制の整備。	○柔道整復学科 引き続き、各地で活躍する卒業生にコンタクトを取り、本学の知名度を高める活動の依頼。 ・引き続き、さらなる社会人経験のある学生の受入れ（例 社会人入試、編入学入試）体制の整備。	○柔道整復学科 引き続き、各地で活躍する卒業生にコンタクトを取り、本学の知名度を高める活動の依頼。 ・引き続き、さらなる社会人経験のある学生の受入れ（例 社会人入試、編入学入試）体制の整備。

# 中長期計画一覧表（2018～2023年度分）

大項目	中項目	小項目	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
財政基盤の安定	外部資金の獲得	科研費の積極的確保	○公的研究支援室 採択数の増加を目指す場合、すべきことは応募者数の増加である。そのため、科研費研修において、科研費応募戦略に精通した講師を招聘してセミナーを実施する。	○公的研究支援室 科研費に応募した研究者には、翌年度の個人研究費を増額する。更に採択された研究者には、研究期間中の個人研究費を増額する。	○公的研究支援室 申請状況の検証	○公的研究支援室 一部修正	○公的研究支援室 申請状況の検証	○公的研究支援室 一部修正
		科研費等研究助成事業	○3学科 科研費等研究助成事業へのさらなる積極的な応募。	○3学科 引き続き、科研費等研究助成事業へのさらなる積極的な応募。	○3学科 引き続き、科研費等研究助成事業へのさらなる積極的な応募。	○3学科 引き続き、科研費等研究助成事業へのさらなる積極的な応募。	○3学科 引き続き、科研費等研究助成事業へのさらなる積極的な応募。	○3学科 引き続き、科研費等研究助成事業へのさらなる積極的な応募。
		経常費補助金の増加	○財務部、学務部、法人本部 特別補助について、取り組めるものから積極的に実施していくための事業のピックアップを実施。	○財務部、学務部、法人本部 奨学費において学業成績優秀者に加え、経済的困難者を対象とするによる補助金拡大への取組実施。	○財務部、学務部、法人本部 学内ワークスタディ事業について実施できないかの検討実施。	○財務部、学務部、法人本部 学内ワークスタディ事業の実施。	○財務部、学務部、法人本部 取組可能事項の検討。	
		外部資金のデータベース整理および競争的資金の獲得に向けた応募の推奨	○3学科 外部資金のデータベース整理。および、外部資金獲得のため、若手教員に対して申請書類作成指導を実施。	○3学科 引き続き、外部資金のデータベース整理。および、外部資金獲得のため、若手教員に対して申請書類作成指導を実施。	○3学科 引き続き、外部資金のデータベース整理。および、外部資金獲得のため、若手教員に対して申請書類作成指導を実施。	○3学科 引き続き、外部資金のデータベース整理。および、外部資金獲得のため、若手教員に対して申請書類作成指導を実施。	○3学科 引き続き、外部資金のデータベース整理。および、外部資金獲得のため、若手教員に対して申請書類作成指導を実施。	○3学科 引き続き、外部資金のデータベース整理。および、外部資金獲得のため、若手教員に対して申請書類作成指導を実施。
		学内特別研究費	○3学科 ・申請書作成相互協力。 ・学内特別研究費の有効な運用。	○3学科 引き続き ・申請書作成相互協力。 ・学内特別研究費の有効な運用。	○3学科 引き続き ・申請書作成相互協力。 ・学内特別研究費の有効な運用。	○3学科 引き続き ・申請書作成相互協力。 ・学内特別研究費の有効な運用。	○3学科 引き続き ・申請書作成相互協力。 ・学内特別研究費の有効な運用。	○3学科 引き続き ・申請書作成相互協力。 ・学内特別研究費の有効な運用。
		教員研究の推進のための学科共同研究費による萌芽的研究助成	○看護学科 学科共同研究費による萌芽的研究助成	○看護学科 引き続き、学科共同研究費による萌芽的研究助成。	○看護学科 引き続き、学科共同研究費による萌芽的研究助成。	○看護学科 引き続き、学科共同研究費による萌芽的研究助成。	○看護学科 引き続き、学科共同研究費による萌芽的研究助成。	○看護学科 引き続き、学科共同研究費による萌芽的研究助成。
	人件費の抑制	教員		○3学科 授業数/週に基づく教員の再構成。	○3学科 引き続き、授業数/週に基づく教員の再構成。	○3学科 引き続き、授業数/週に基づく教員の再構成。	○3学科 引き続き、授業数/週に基づく教員の再構成。	○3学科 引き続き、授業数/週に基づく教員の再構成。
		人件費の抑制	○法人本部 平成32年までの3年間、学生確保の動向を見極める。	○法人本部 引き続き、平成32年までの3年間、学生確保の動向を見極める。	○法人本部 引き続き、平成32年までの3年間、学生確保の動向を見極める。	○法人本部 過去3年間の学生確保の状況に基づき、人件費の抑制策について検討を開始する。	○法人本部 過去4年間の学生確保の状況に基づき、人件費の抑制策を実施する。	○法人本部 引き続き、過去5年間の学生確保の状況に基づき、人件費の抑制策を実施する。
	物件費の削減	購入単価の見直し	○保健医療学部、看護学部、総務部、財務部、学務部、附属クリニック、附属鍼灸センター、附属接骨センター ・大口取引業者の選定、各学部、各部門とのヒアリング。 ・他の業者への見積合せの実施。	○保健医療学部、看護学部、総務部、財務部、学務部、附属クリニック、附属鍼灸センター、附属接骨センター ・ヒアリングの結果、業者変更の有無、納入品目の変更の有無を確認のうえ、業者との価格交渉。	○保健医療学部、看護学部、総務部、財務部、学務部、附属クリニック、附属鍼灸センター、附属接骨センター ・検証。	○保健医療学部、看護学部、総務部、財務部、学務部、附属クリニック、附属鍼灸センター、附属接骨センター ・業者の選定、価格交渉。	○保健医療学部、看護学部、総務部、財務部、学務部、附属クリニック、附属鍼灸センター、附属接骨センター ・検証。	○保健医療学部、看護学部、総務部、財務部、学務部、附属クリニック、附属鍼灸センター、附属接骨センター ・検証。
		一般管理費の契約見直し及び経費削減の実施。中期計画期間の最終年度までの目標⇒一般管理経費5%削減	○財務部 一般管理費における契約内容等の見直しを実施。また、経費削減計画の策定。	○財務部 削減計画に基づき、一般管理費の削減推進。	○財務部 前年度に引き続き、一般管理費の削減推進。	○財務部 前年度に引き続き、一般管理費の削減推進。	○財務部 前年度に引き続き、一般管理費の削減推進。	○財務部 前年度に引き続き、一般管理費の削減推進。
	余裕金の活用	現預金の確保と活用	○法人本部 現預金の活用にあたっては、安全性に留意し有利な条件での運用を実施。	○法人本部 引き続き、現預金の活用にあたっては、安全性に留意し有利な条件での運用を実施。	○法人本部 引き続き、現預金の活用にあたっては、安全性に留意し有利な条件での運用を実施。	○法人本部 引き続き、現預金の活用にあたっては、安全性に留意し有利な条件での運用を実施。	○法人本部 引き続き、現預金の活用にあたっては、安全性に留意し有利な条件での運用を実施。	○法人本部 引き続き、現預金の活用にあたっては、安全性に留意し有利な条件での運用を実施。



# 中長期計画一覧表（2018～2023年度分）

大項目	中項目	小項目	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
業務運営の改善	ガバナンスの強化	大学の適切な運営実施のためにIR委員会を活用し、学内外の様々なデータの収集、分析、可視化を行い、学長の意思決定を支援。	○IR委員会 前年度設置されたIR委員会を活用し、IR委員会が関係部署と連携の上、データ収集、分析、可視化を行い、学長の意思決定を支援。	○IR委員会 引き続き、IR委員会を活用し、IR委員会が関係部署と連携の上、データ収集、分析、可視化を行い、学長の意思決定を支援。	○IR委員会 引き続き、IR委員会を活用し、IR委員会が関係部署と連携の上、データ収集、分析、可視化を行い、学長の意思決定を支援。	○IR委員会 引き続き、IR委員会を活用し、IR委員会が関係部署と連携の上、データ収集、分析、可視化を行い、学長の意思決定を支援。	○IR委員会 引き続き、IR委員会を活用し、IR委員会が関係部署と連携の上、データ収集、分析、可視化を行い、学長の意思決定を支援。	○IR委員会 引き続き、IR委員会を活用し、IR委員会が関係部署と連携の上、データ収集、分析、可視化を行い、学長の意思決定を支援。
	内部統制の強化	教職員等を対象に研究不正防止を目的とした倫理観や責任感を培うため、研究活動を通して全方向的な不正防止策への取組について周知徹底を継続実施する。	○財務部 全教職員に対し、研究費獲得前、獲得後の研究実施、研究費配分後の収支管理に区分して研修を実施する。更にそれぞれのテーマにおいて当該年度における重点課題を相互共有することで、全学的な不正防止策を目指す。（当年度は獲得前の研究不正を重点課題とする。）	○財務部 全教職員に対し、研究費獲得前、獲得後の研究実施、研究費配分後の収支管理に区分して研修を実施する。更にそれぞれのテーマにおいて当該年度における重点課題を相互共有することで、全学的な不正防止策を目指す。（当年度は、前年度までの問題点を整理し、重点課題とする。）	○財務部 全教職員に対し、研究費獲得前、獲得後の研究実施、研究費配分後の収支管理に区分して研修を実施する。更にそれぞれのテーマにおいて当該年度における重点課題を相互共有することで、全学的な不正防止策を目指す。（当年度は、前年度までの問題点を整理し、重点課題とする。）	○財務部 全教職員に対し、研究費獲得前、獲得後の研究実施、研究費配分後の収支管理に区分して研修を実施する。更にそれぞれのテーマにおいて当該年度における重点課題を相互共有することで、全学的な不正防止策を目指す。（当年度は、前年度までの問題点を整理し、重点課題とする。）	○財務部 全教職員に対し、研究費獲得前、獲得後の研究実施、研究費配分後の収支管理に区分して研修を実施する。更にそれぞれのテーマにおいて当該年度における重点課題を相互共有することで、全学的な不正防止策を目指す。（当年度は、前年度までの問題点を整理し、重点課題とする。）	○財務部 全教職員に対し、研究費獲得前、獲得後の研究実施、研究費配分後の収支管理に区分して研修を実施する。更にそれぞれのテーマにおいて当該年度における重点課題を相互共有することで、全学的な不正防止策を目指す。（当年度は、前年度までの問題点を整理し、重点課題とする。）
		監事との意思疎通を定期的実施し、必要な情報を速やかに提供するなど監事の職務遂行を支援。また、監査結果や意見の速やかな改善。	○事務局 監事との意思疎通を定期的実施し、必要な情報を速やかに提供するなど監事の職務遂行を支援。監査結果や意見については、学内で共有化するとともに、大学業務の適正化や効率化のために速やかに改善策を実施。	○事務局 引き続き、監事との意思疎通を定期的実施し、必要な情報を速やかに提供するなど監事の職務遂行を支援。監査結果や意見については、学内で共有化するとともに、大学業務の適正化や効率化のために速やかに改善策を実施。	○事務局 引き続き、監事との意思疎通を定期的実施し、必要な情報を速やかに提供するなど監事の職務遂行を支援。監査結果や意見については、学内で共有化するとともに、大学業務の適正化や効率化のために速やかに改善策を実施。	○事務局 引き続き、監事との意思疎通を定期的実施し、必要な情報を速やかに提供するなど監事の職務遂行を支援。監査結果や意見については、学内で共有化するとともに、大学業務の適正化や効率化のために速やかに改善策を実施。	○事務局 引き続き、監事との意思疎通を定期的実施し、必要な情報を速やかに提供するなど監事の職務遂行を支援。監査結果や意見については、学内で共有化するとともに、大学業務の適正化や効率化のために速やかに改善策を実施。	○事務局 引き続き、監事との意思疎通を定期的実施し、必要な情報を速やかに提供するなど監事の職務遂行を支援。監査結果や意見については、学内で共有化するとともに、大学業務の適正化や効率化のために速やかに改善策を実施。
	戦略的な広報体制の確立	国家試験結果、学生の進路先、大学イベントの公表	○アドミッションセンター 国家試験結果・学生の進路・大学イベント等の公表。	○アドミッションセンター 引き続き、国家試験結果・学生の進路・大学イベント等の公表。	○アドミッションセンター 引き続き、国家試験結果・学生の進路・大学イベント等の公表。	○アドミッションセンター 引き続き、国家試験結果・学生の進路・大学イベント等の公表。	○アドミッションセンター 引き続き、国家試験結果・学生の進路・大学イベント等の公表。	○アドミッションセンター 引き続き、国家試験結果・学生の進路・大学イベント等の公表。
		教員の活動に関する公表	○アドミッションセンター 教員の活動に関する公表。	○アドミッションセンター 引き続き、教員の活動に関する公表。	○アドミッションセンター 引き続き、教員の活動に関する公表。	○アドミッションセンター 引き続き、教員の活動に関する公表。	○アドミッションセンター 引き続き、教員の活動に関する公表。	○アドミッションセンター 引き続き、教員の活動に関する公表。
	情報公開	ソーシャルメディア				○3学科 学科情報等の発信の開始。		
	Webサイト	更新作業の効率化	○情報センター サイトの更新作業を情報センター職員でなくともできるようにするために、コンテンツマネジメントシステム(CMS)の導入を検討。	○情報センター CMS導入に着手。	○情報センター CMS導入を進行。	○情報センター CMS導入完了。	○情報センター CMS導入効果を検証。	
	教職員の業務省力化	ICT導入による業務省力化		○情報センター ICT導入によるペーパーレス化、業務省力化の検討。 (例:各種申請の電子化)	○情報センター 検討した結果に基づき、取り組みに着手。	○情報センター 業務省力化のためのシステム整備の推進。	○情報センター システム導入完了。	○情報センター システム導入の効果を検証。
	自己点検・評価	外部評価機関の活用	日本高等教育評価機構による認証評価受審				○全学 日本高等教育評価機構による認証評価を受審し、その結果を改善に向け有効活用する。	
		自己点検・評価の実施	中期計画、年度計画について、各部署において、自己点検・評価を実施するとともに学長を中心とした評価委員会が適切な進捗管理を実施。	○評価委員会、総務部 6月までに中期計画、年度計画を策定。年度計画は評価委員会が進捗状況を管理し着実な計画の遂行。	○評価委員会、総務部 引き続き、年度計画について、評価委員会が進捗状況を管理し着実な計画の遂行。	○評価委員会、総務部 引き続き、年度計画について、評価委員会が進捗状況を管理し着実な計画の遂行。	○評価委員会、総務部 引き続き、年度計画について、評価委員会が進捗状況を管理し着実な計画の遂行。	○評価委員会、総務部 引き続き、年度計画について、評価委員会が進捗状況を管理し着実な計画の遂行。

# 中長期計画一覧表（2018～2023年度分）

大項目	中項目	小項目	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
キャンパス整備・危機管理	キャンパスの総合整備	シミュレーション・ラボの整備及び有効活用	○看護学科 シミュレーションラボの整備の検討。	○看護学科 シミュレーションラボの運用・評価。	○看護学科 引き続き、シミュレーションラボの運用・評価。	○看護学科 引き続き、シミュレーションラボの運用・評価。	○看護学科 引き続き、シミュレーションラボの運用・評価。	○看護学科 引き続き、シミュレーションラボの運用・評価。
		既存施設・設備の調査による状況の的確な把握。その結果に基づく保守管理計画を策定し維持保全を推進。	○総務部 施設・設備の現況調査を実施し状況の的確な把握。	○総務部 前年度の調査に基づく保守管理計画及び予算計画の策定。	○総務部 保守管理計画に基づき、優先度の高いものから整備等の実施。	○総務部 前年度に引き続き、計画を推進。	○総務部 前年度に引き続き、計画を推進。	○総務部 前年度に引き続き、計画を推進。
		防災設備	○総務部、財務部 年1回の防災設備点検による修繕作業の実施及び修繕計画の策定。	○総務部、財務部 定期点検実施とともに、常に応じた施設設備の故障及び経年変化に迅速に対応するための準備及び点検を実施。	○総務部、財務部 引き続き、定期点検実施とともに、常に応じた施設設備の故障及び経年変化に迅速に対応するための準備及び点検を実施。	○総務部、財務部 引き続き、定期点検実施とともに、常に応じた施設設備の故障及び経年変化に迅速に対応するための準備及び点検を実施。	○総務部、財務部 引き続き、定期点検実施とともに、常に応じた施設設備の故障及び経年変化に迅速に対応するための準備及び点検を実施。	○総務部、財務部 引き続き、定期点検実施とともに、常に応じた施設設備の故障及び経年変化に迅速に対応するための準備及び点検を実施。
		衛生設備	○総務部、財務部 年2回の空調機設備点検による修繕作業の実施及び修繕計画の策定。	○総務部、財務部 定期点検実施とともに、常に応じた施設設備の故障及び経年変化に迅速に対応するための準備及び点検を実施。	○総務部、財務部 引き続き、定期点検実施とともに、常に応じた施設設備の故障及び経年変化に迅速に対応するための準備及び点検を実施。	○総務部、財務部 引き続き、定期点検実施とともに、常に応じた施設設備の故障及び経年変化に迅速に対応するための準備及び点検を実施。	○総務部、財務部 引き続き、定期点検実施とともに、常に応じた施設設備の故障及び経年変化に迅速に対応するための準備及び点検を実施。	
		電気設備	○総務部、財務部 年1回の電気設備点検による修繕作業の実施及び修繕計画の策定。	○総務部、財務部 定期点検実施とともに、常に応じた施設設備の故障及び経年変化に迅速に対応するための準備及び点検を実施。	○総務部、財務部 引き続き、定期点検実施とともに、常に応じた施設設備の故障及び経年変化に迅速に対応するための準備及び点検を実施。	○総務部、財務部 引き続き、定期点検実施とともに、常に応じた施設設備の故障及び経年変化に迅速に対応するための準備及び点検を実施。	○総務部、財務部 引き続き、定期点検実施とともに、常に応じた施設設備の故障及び経年変化に迅速に対応するための準備及び点検を実施。	
		建築設備	○総務部、財務部 年1回の建築設備点検による修繕作業の実施及び修繕計画の策定。	○総務部、財務部 定期点検実施とともに、常に応じた施設設備の故障及び経年変化に迅速に対応するための準備及び点検を実施。	○総務部、財務部 引き続き、定期点検実施とともに、常に応じた施設設備の故障及び経年変化に迅速に対応するための準備及び点検を実施。	○総務部、財務部 引き続き、定期点検実施とともに、常に応じた施設設備の故障及び経年変化に迅速に対応するための準備及び点検を実施。	○総務部、財務部 引き続き、定期点検実施とともに、常に応じた施設設備の故障及び経年変化に迅速に対応するための準備及び点検を実施。	
		既存の安全管理・危機管理（リスクマネジメント）体制の検証及び体制の見直しや強化を推進。また、マニュアル等の改訂及び周知徹底を促進。	○危機管理委員会、防災対策委員会、総務部 既存の安全管理・危機管理体制について、問題点の洗い出しを実施。	○危機管理委員会、防災対策委員課、総務部 ・問題点を踏まえた安全管理・危機管理体制を構築。 ・マニュアル等を改訂とともに教職員等への周知・徹底を促進。	○危機管理委員会、防災対策委員課、総務部 必要に応じ、安全管理・危機管理体制やマニュアル等を改善。	○危機管理委員会、防災対策委員課、総務部 必要に応じ、安全管理・危機管理体制やマニュアル等を改善。	○危機管理委員会、防災対策委員課、総務部 必要に応じ、安全管理・危機管理体制やマニュアル等を改善。	
		備蓄	○危機管理委員会、防災対策委員会 震災時などに対する備蓄	○危機管理委員会、防災対策委員会 引き続き、震災時などに対する備蓄。	○危機管理委員会、防災対策委員会 引き続き、震災時などに対する備蓄。	○危機管理委員会、防災対策委員会 引き続き、震災時などに対する備蓄。	○危機管理委員会、防災対策委員会 引き続き、震災時などに対する備蓄。	
		守衛、防犯カメラ		○事務局 守衛、防犯カメラの設置を検討。				
		学外への業務データ保管・二重化		○情報センター 二重化技術の修得。	○情報センター 業者と費用の調査開始。	○情報センター 設計を確定、施工業者を決め着手。	○情報センター 業務データの二重化を完成。	
		研究環境の整備					○3学科、財務部、学務部 研究環境の充実に関する検討。	
		課外活動団体の部室確保		○学生委員会 部活・同好会の部室の充実に関する検討。	○学生委員会 引き続き、部活・同好会の部室の充実に関する検討。	○学生委員会 引き続き、部活・同好会の部室の充実に関する検討。	○学生委員会 引き続き、部活・同好会の部室の充実に関する検討。	
ネットワーク関係の整備		○情報センター 無線・有線LANの整備に関する調査、検討。	○情報センター 全教室に無線LANを整備。基幹ネットワーク(有線LAN)の整備を開始。	○情報センター 学内すべての施設での無線LAN使用可。 開学時より使用してきた基幹ネットワーク(有線LAN)の整備完了。 高速で安定し、かつ高セキュリティな対外接続を維持するため、対外接続用のルーター・ファイアウォールの更新の検討を開始。	○情報センター 現在接続している回線(SINET5)が終了する年度、次期SINETへの円滑な移行を実施。 対外接続用のルーター・ファイアウォールの次期の仕様を確定。	○情報センター 次期SINETへの移行および対外接続用のルーター・ファイアウォールの更新を完了。		

# 中長期計画一覧表（2018～2023年度分）

大項目	中項目	小項目	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度		
キャンパス整備・危機管理	社会貢献・文化活動の推進	附属鍼灸センター	○附属鍼灸センター 鍼灸治療体験や健康相談等による地域協力。	○附属鍼灸センター 引き続き、鍼灸治療体験や健康相談等による地域協力。	○附属鍼灸センター 引き続き、鍼灸治療体験や健康相談等による地域協力。	○附属鍼灸センター 引き続き、鍼灸治療体験や健康相談等による地域協力。	○附属鍼灸センター 引き続き、鍼灸治療体験や健康相談等による地域協力。	○附属鍼灸センター 引き続き、鍼灸治療体験や健康相談等による地域協力。		
			○附属鍼灸センター 研究・附属鍼灸センター来院患者等に関連した医療機関との連携。	○附属鍼灸センター 引き続き、研究・附属鍼灸センター来院患者等に関連した医療機関との連携。	○附属鍼灸センター 引き続き、研究・附属鍼灸センター来院患者等に関連した医療機関との連携。	○附属鍼灸センター 引き続き、研究・附属鍼灸センター来院患者等に関連した医療機関との連携。	○附属鍼灸センター 引き続き、研究・附属鍼灸センター来院患者等に関連した医療機関との連携。			
			○附属鍼灸センター 附属鍼灸センターの地域向け公開講座等イベント開催。	○附属鍼灸センター 引き続き、附属鍼灸センターの地域向け公開講座等イベント開催。	○附属鍼灸センター 引き続き、附属鍼灸センターの地域向け公開講座等イベント開催。	○附属鍼灸センター 引き続き、附属鍼灸センターの地域向け公開講座等イベント開催。	○附属鍼灸センター 引き続き、附属鍼灸センターの地域向け公開講座等イベント開催。			
		区民公開講座の開催	○看護学科 区民公開講座開催準備	○看護学科 区民公開講座の開催	○看護学科 引き続き、区民公開講座の開催。	○看護学科 引き続き、区民公開講座の開催。	○看護学科 引き続き、区民公開講座の開催。	○看護学科 引き続き、区民公開講座の開催。	○看護学科 引き続き、区民公開講座の開催。	
			附属接骨センターの充実	人的・設備環境の整備	○附属接骨センター ・患者が安心して来院できる様、新たな人材の登用を検討。 ・患者のプライバシー保護をさらに配慮した環境整備の促進を検討。	○附属接骨センター ・引き続き、患者が安心して来院できる様、新たな人材の登用。 ・引き続き、患者のプライバシー保護をさらに配慮した環境整備の促進。	○附属接骨センター ・引き続き、患者が安心して来院できる様、新たな人材の登用。 ・引き続き、患者のプライバシー保護をさらに配慮した環境整備の促進。	○附属接骨センター ・引き続き、患者が安心して来院できる様、新たな人材の登用。 ・引き続き、患者のプライバシー保護をさらに配慮した環境整備の促進。	○附属接骨センター ・引き続き、患者が安心して来院できる様、新たな人材の登用。 ・引き続き、患者のプライバシー保護をさらに配慮した環境整備の促進。	○附属接骨センター ・引き続き、患者が安心して来院できる様、新たな人材の登用。 ・引き続き、患者のプライバシー保護をさらに配慮した環境整備の促進。
					サーバの整備	○情報センター 学術認証フェデレーション用のサーバのライセンス契約が終了のため移行を実施。	○情報センター 認証基盤、ファイルサーバの更新の検討を開始。	○情報センター 認証基盤、ファイルサーバの更新に着手。	○情報センター 認証基盤、ファイルサーバの更新を完了。	
	職員の業務用PCの整備	○情報センター Windows7のサポート終了に備え学内すべてのWindowsマシンをWindows10に移行。				○情報センター Windows10のサポート終了時期及び次期Windowsに関する調査実施。	○情報センター 引き続き、Windows10のサポート終了時期及び次期Windowsに関する調査実施。	○情報センター 引き続き、Windows10のサポート終了時期及び次期Windowsに関する調査実施。		
		コンピュータ教室			老朽化した機器の入れ替え	○情報センター 開学時より使用しているPCの入れ替えについて検討。	○情報センター 台数の削減も視野に入れ、PCの入れ替えを実施。	○情報センター 開学時より使用しているプロジェクトの入れ替えを検討。	○情報センター プロジェクトの入れ替えを実施。	
	セキュリティ対策					セキュリティ対策	○情報センター 標的型攻撃メール対策・パスワード管理方法に関する講義の実施。	○情報センター セキュリティ関連情報を収集し、教職員学生に注意喚起・教育し、システム整備を実施。	○情報センター 引き続き、セキュリティ関連情報を収集し、教職員学生に注意喚起・教育し、システム整備を実施。	○情報センター 引き続き、セキュリティ関連情報を収集し、教職員学生に注意喚起・教育し、システム整備を実施。